

## 2 愛知県全域連携SSH自然科学部交流会

### (1) 仮説

自然科学部の研究に取り組む高校生が、大学の研究者から直接アドバイスを受けられる機会を作る。このような機会を作ることで、高校生の研究の質が向上するとともに、意欲や論理性を高めることができる。また、部活動の顧問が専門性を高めたり高大連携の方法を知ることで、先進的な教育連携が促進する可能性がある。

### (2) 方法

#### ア 地域（または県下）の理科教育における位置づけとねらい

新聞社や教育団体が主催する科学コンテストは、研究の成果が評価される場であり、研究で生じた問題点や疑問について指導を受ける場ではない。本会は、生徒が自らの研究について簡単に説明し、その後研究上の疑問や問題点について指摘したり相談する機会として設定している。



ポスター発表の様子

#### イ 連携先・対象と規模

連携先：名古屋大学理学研究科・環境学研究科・数理学研究科

対象と規模：合計152名（生徒130名、教員22名）

生徒：岡崎24名、明和3名、半田11名、豊田西2名、向陽5名、瑞陵12名、名大附5名、名城附11名、一宮57名

教員：岡崎1名、明和2名、半田2名、向陽1名、知立東1名、名大附2名、名城附2名、一宮11名

#### ウ 内容

##### (ア) 事業の概要と現状の分析

午前は、日頃課題研究に取り組んでいる各校の生徒が、自らの研究についてポスター発表をして、名古屋大学理学部の研究者やTAから多くの助言を頂いた。午後は2つの講演（理学研究科 南部 保貞先生の「重力の物理学とブラックホール」）（環境学研究科 諸田 智克先生の「月科学の最前線」～月探索機「かぐや」の成果～）を聞き、その後多くの質問が出され、活発な議論が展開された。

##### (イ) 事業の取組

実施日時 10月27日（日）9：50～15：40

実施場所 名古屋大学理学部南館多目的室、大講堂（坂田・平田ホール）

注意・工夫した点

ポスター発表は前半・後半に分けて計画し、発表者も他の多くの発表を見られるようにした。

### (3) 検証

#### 生徒の事後アンケートから

グラフからは参加生徒が参加してよかったと感じていることがわかる。特に研究者からの助言が研究の参考になっていると答えている。

